

土壤処理型除草剤

アイピーシー

農林水産省登録
第7693号

クローIPC「石原」

冬の畑作除草剤



スズメノテッポウ



スズメノカタビラ



ハコベ

特長

- 冬畑に発生が多いスズメノテッポウやスズメノカタビラ、ハコベなどの発生を抑えます。
- 雑草の発芽前から発生始期までの土壤処理で高い効果を示します。
- 秋から春にかけて、気温が20℃以下の時期に高い効果を示します。



■適用作物と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		使用方法	本剤およびIPCを含む農薬の総使用回数
			薬量(ml)	希釈水量		
たまねぎ	一年生雑草	定植活着後または中耕後 但し収穫90日前まで	200~300	70~100ℓ	全面土壌散布	2回以内
ほうれんそう		は種直後	無催芽種子 100~150 催芽種子 150~200			
いちご		定植活着後 但し定植7日後まで	150~200		株間土壌散布	
いんげんまめ		は種直後	500~900		全面土壌散布	
		は種後5~15日(発芽前)	500~600			
にんじん		は種直後(除高温時)	500~600(北海道を除く)		全面土壌散布	
			300(北海道)			
ごぼう		は種直後	500(北海道を除く)		全面土壌散布	
			春播き200~300(北海道)			
			晩春播き200~400(北海道)			
キャベツ		定植後 但し収穫60日前まで	150~300		株間土壌散布	
だいず		は種後発芽前	200~300		全面土壌散布	
あずき		は種直後				
レタス (移植露地栽培) 非結球レタス (移植露地栽培)		定植活着後 但し収穫60日前まで	300~500		株間土壌散布	
アスパラガス(苗床)		は種直後	200~300		全面土壌散布	
アスパラガス(定植畑)		培土後雑草発生前 但し収穫30日前まで	250~300			
そらまめ		中耕培土後 但し収穫90日前まで	200			
未成熟そらまめ		中耕培土後 但し収穫60日前まで				
てんさい		は種直後	200~300			
麦類		は種直後または2~3葉期	100~150			
チューリップ	植付後	300	株間土壌散布			
日本芝 (こうらいしば、 ひめこうらいしば)	秋期~春期にかけて気温が 20℃内外の時期 雑草発生前~発生始期	400~600	200~300ℓ	全面散布	2回以内	

※本内容は平成30年8月8日付の登録内容に基づいています。

⚠ 効果・薬害等の注意

◆一般的注意事項(共通)

- 高温時には除草効果が十分得られないので、気温が20℃以下の時期に使用してください。
- 成長した雑草に対しては、ほとんど効果が認められないので、は種または植付直後、中耕施肥直後などの雑草発芽前、または稚幼期に土壌散布してください。
- 洪積土壌では薬害が出にくいですが、沖積土壌では作物に影響を与えやすいので、使用にあたっては土質に関し十分注意してください。なお、砂質土壌では使用をさけてください。
- 散布後、中耕・培土・土入れなどにより土壌上層を移すと、雑草の種子が下部より出て発芽し、効果が低下することがあるので注意してください。
- 過乾の場合は効果が顕著でなく、逆に過湿の場合は薬害が生じやすいので、できるだけ雨天をさけ散布してください。雨天の場合は、降雨後、土壌水分が適湿の状態となつてから散布してください。散布後 激しい降雨が予想される場合は、薬害が生じるので使用をさけてください。
- 必ず2~3cmの厚さに覆土を施し、よく碎土し鎮圧してから散布してください。堆肥のみの覆土の場合は使用しないでください。
- 広葉作物の除草に使用する場合には、薬液が作物の莖葉にかからないように圧力を下げて散布してください。
- 著しく低温の場合は製品中に一部原体が結晶析出することがありますが、この場合でも溶かせば効果に変わりはありません。ピンのままぬるま湯に浸して十分溶かした後、よく振ってからご使用ください。
- 使用した器具類は、使用後できるだけ早く水または石けん水で洗っておき、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意してください。
- 使用にあたっては土壌条件、気象状況ならびに発生する雑草の相違から効果および作物への影響も異なるので、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けるようにしてください。

◆作物別注意事項

- にんじんに使用する場合
北海道における300ml/10aでは、アカザ・キク科雑草の優占する圃場では効果が劣るので、有効な薬剤との組み合わせで防除してください。
- ごぼうに使用する場合
べたがけおよびマルチ栽培では薬害が生じるので、使用しないでください。
- レタスに使用する場合
特に処理時の温度に影響されるので、適用対象地帯は東日本ならびに山間高冷地です。
- 麦に使用する場合
・催芽まきの場合は、散布しないでください。
・晩播で越冬まで5葉に達する見込みのない場合は、散布しないでください。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 皮膚に対して刺激性があるので、散布の際は、手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用し、薬剤が皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんよく洗い落としてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないように注意してください。
- 公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のないものが散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので散布液がかからないように注意してください。
- 危険物第4類第2石油類に属しますので、火気には十分注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。